

1. 申請者情報

都道府県名	愛知県	市区町村等名	豊田市	地方公共団体コード	23211
-------	-----	--------	-----	-----------	-------

2. 交付対象事業の名称等

単独／広域 ／広域リー ジョン	交付対象事業の名称															
単独	豊田の強みを生かした戦略的な観光誘客事業															
主となる事業分野 (入力必須)		事業分野 (大項目)		地場産業支援関連事業		事業分野 (詳細)		地場産業の付加価値向上や販路開拓等を支援し、 地域経済の維持及び拡大を目指す取組及びこれに 関連する周辺的な取組				事業分野	○			
ソフト事業実施期間		2026	年	4	月	1	日	から	2029	年	3	月	31	日	まで	} 入力必須 (実施事業のみ)
拠点整備事業実施期間			年		月		日	から		年		月		日	まで	
インフラ整備事業実施期間			年		月		日	から		年		月		日	まで	

入力必須
(実施事業のみ)

No.	都道府県名	市区町村等名	地方公共団体コード	【ソフト事業】 対象事業経費	【ソフト事業】 申請額(左記の1/2)	【拠点整備事業】 対象事業経費	【拠点整備事業】 申請額(左記の1/2)	【インフラ整備事業】 対象事業経費	【インフラ整備事業】 申請額
1	愛知県	豊田市	23211	20,319千円	10,159千円				
計				20,319千円	10,159千円	0千円	0千円	0千円	0千円

3. 交付対象事業の背景・概要

A. 地方創生として目指す将来像(交付対象事業の背景)

【背景・現状】
本市は、ものづくり産業の拠点として発展してきた歴史から「クルマのまち」として世界に誇ることのできる独自性・優位性を持っている。現在、自動車産業は、国内市場の縮小や国際競争の激化に加え、異業種の参入が相次ぐなど開発競争が激化しており、本市も引き続き、ものづくり企業が集積している特性を生かし、次世代モビリティの研究開発拠点としての機能をさらに強化したまちづくりの推進が必要となる。
また、本市は、市町村合併を重ねて発展してきたことから、現在は愛知県全体の17.8%を占める市域を有し、さらに市域の約7割を占める豊かな自然と歴史・文化等の多様な魅力にあふれたまちとなっている。しかし、市全体としても2019年をピークに人口減少が進行し、特に山村地域においては、急速な人口減少や高齢化によって、地域活動の維持、観光業や商業の衰退にも拍車がかかっている状況である。
本市の観光入込客数は、2015年以降、1,050万人前後で推移していたが、コロナ流行の影響を受け、2020年は前年比▲28.4%の736万人に落ち込んでいる。以降回復傾向にあるものの、令和6年時点で、コロナ以前の1,000万人を超えるほどの回復には至っていない。
上記のとおり、本市には、「クルマ」と「自然、歴史文化、芸術、スポーツ」等の多様な魅力があり、これらの地域資源を生かすことで、まちへの愛着・誇りの形成や、本市に訪れる人の増加につなげることが重要である。また、本市の特徴である都市山村を連携させることで、地域産業を持続的に発展させていく必要がある。

【目指す将来像】
「豊かな地域資源を生かした持続可能な観光まちづくりの実現」
本市で長く育まれてきた自然・歴史文化などの資源(連綿たる歴史)と、クルマのまちとして未来を切り拓くものづくり産業(ミライの技術)が融合した新たな価値を創出し続ける強みを生かし、観光で市民の活力や来訪者の感動を生み出すとともに、誰もが快適に安心して観光を楽しめる取組の推進を通して、観光入込客数の増加、市内消費の喚起など地域経済の活性化を図っていく。
また、観光施策は、地域外から人を呼び込むことが重要である一方、その基盤となる地域の魅力や文化は地域住民が守り続け、築きあげてきたものであるため、地域住民が主体的に関わり、地域経済の活性化だけでなく、地域への愛着・誇りの形成やコミュニティ等の活性化を図ることで、持続可能な観光まちづくりの実現を目指していく。

B. 地方創生の実現における構造的な課題

①年間を通じた誘客が不十分
本市には、足助地区の香嵐渓や小原地区の四季桜、藤岡地区のふじの回廊等、豊かな自然を生かした観光資源が点在しているが、季節による偏りが激しく、各地で開催される秋のみじまつり期間中では、近年、本市の「紅葉」資源の魅力が定着化しており、来訪者が増加傾向にあることから、周辺の駐車場不足による交通渋滞等のオーバーツーリズムが見受けられている状況である。これらの状況は、秋の自然資源の魅力を市内外に発信し、本市の強みを生かした誘客ができていて一方で、山城や著名な建築家が設計した公共施設をはじめ多様な資源を有しているが、掘り起こし、磨き上げが不十分で、認知してもらえていないのが課題である。そのため、秋以外の時期においても、多様な資源を掘り起こし、磨き上げることで、季節変動に左右されない年間を通じた誘客を促進し、観光入込客数の増加を図る必要がある。

②本市の豊かな地域資源を生かした誘客・周遊プログラムの不足
(一社)ツーリズムとよたの観光マーケティング調査結果によると、本市における宿泊状況は、日帰り:88%、宿泊:12%と圧倒的に日帰りが多く、さらに、平均滞在時間は2.7時間と短いことから、広大な市域に点在する地域資源を結び、滞在・周遊を促進する取組が展開できていないと言え難い状況である。また、これまでも着地型商品の開発・プロモーション等を進めてきたが、飲食や着地型商品などは本市以外でも体験できるものが多く、「豊田市でなければ経験・体験できない」といった本市ならではの観光価値がニーズに合わせて造成できていないことも課題である。
そのため、特定の地域資源だけでなく、各地域にある共通の資源(山城や自然等)の活用した周遊促進や、自地域の優位性(豊田の強み)を明確にし、コンセプトやターゲットを絞った独自の価値を提供するとともに、多様な地域資源の魅力を再認識し、認知を広めることで、価値の再構築を図ることも重要となる。

③人口減少・高齢化の進む地域における経済の衰退
本市は、自然資源が豊かな一方で、地域によっては人口減少・高齢化が急速に進み、地域活動や地域経済の維持が困難となっている地域もある。本市の第3次産業産業事業所の直近の廃業率は、5.2%となり、全国(5.7%)、愛知県(5.7%)を下回っていることに加え、アンケート調査においても、63.3%の事業者が第三者への事業継承を検討していない実態がある。(豊田市商業活性化プラン2025～2029出典)
特に自然の観光資源が多い山村部では、若者の流出により、地域活動・産業・祭りなどの継続が難しい地域もあり、また、観光業においても、人材不足で、宿泊・飲食・体験事業の継続が難しく、経済基盤が弱体化し、地域循環が成立しない状況になりつつある。
そのため、観光誘客事業を通じて、若い世代から、本市の観光に対する関心を育む等、人材育成に関する取組を推進することで、地域への理解や愛着が高めるとともに、地域での企業や就職する選択肢が増え、住民の暮らしを守るとともに、持続可能な地域経済の基盤の構築が重要となる。

④地域の維持・発展のための環境整備
(一社)ツーリズムとよたの観光マーケティング調査結果によると、本市の要素別満足度では、「景観・雰囲気」の満足度が非常に高いことから、各地区観光協会を始めとした関係団体による観光地の整備が進められていることがわかる。自然観光地は、本市の魅力を象徴する重要な資源である一方、温暖化や老朽化による色づき、開花状況や観光客の増加の影響により、受入環境の整備は大きな課題となっている。豊田市観光実践計画2025～2029の5か年は、特に、山城を中心した歴史文化資源を生かした観光誘客を重点事業に位置付けており、今後、遊歩道の整備や案内看板の設置、支障木の伐採等、安全性を確保する受入環境整備を進めながら、計画的に誘客を図る必要がある。
また、本市には、豊田スタジアムを始めとした公共施設が充実していることから、2019年のラグビーワールドカップや2026年のアジア・アジアパラ競技大会をはじめ、国際的な大会・イベントの開催を通じ、様々な目的で国内外から多くの観光客が訪れている。直近では、アジア・アジアパラ競技大会の開催を契機に、多様な食文化への対応や主要観光地のバリアフリー整備など、誰もが快適に安心して本市の魅力を最大限に感じることができるよう受入整備(ユニバーサルツーリズム)の推進が必要である。

C. 交付対象事業の概要

(交付対象事業がどのように構造的な課題の解決に寄与するのかが分かるように記載すること。)
・豊田市ならではの魅力的な資源を活用した戦略的な取組を推進することで、さらなる観光誘客、市内での消費喚起による経済効果の創出を図る。
・観光地との差別化を図り、観光客に対し、アピールできる自地域の優位性を明確にし、ターゲットを絞った独自の価値を提供していく。
・(一社)ツーリズムとよたや各地区の観光協会、教育機関など多様な関係者と連携を図り、全市的な観光まちづくりを推進していく。

【主な取組概要】

①山城を活かした観光誘客及び歴史・文化資源のリブランディング事業(課題①、②、④の解決に寄与)
⇒令和11年度の全国山城サミット開催に向け、ターゲット層に応じたイベント、ガイド人材の育成、プロモーションの実施
②市内周遊促進事業(課題①、②、③の解決に寄与)
⇒豊田市ならではの資源(スタジアム、美術館博物館などの公共施設など)を活用した広域的な周遊を促進し、来訪者の滞在延伸及び市内消費拡大につながる取組を実施
(桜・ツーリズム推進におけるシャトルバス運行と利用促進(御桜印やチラン作成・配布)、公共施設への周遊を促す体験メニューの造成など)
③教育機関と連携した観光誘客及び観光人材育成事業(課題②、③の解決に寄与)
⇒高校や大学などの教育機関と連携した企画・ツアーの創出及びプロモーションを実施
④豊田らしい手土産開発事業(課題②、③の解決に寄与)
⇒地域ならではの「食文化」の磨き上げによる豊田市のブランディング戦略を推進する豊田らしい手土産開発支援を実施。
⑤ユニバーサルツーリズム推進事業(課題①、②、④の解決に寄与)
⇒ハラル対応など食の多様化推進、多目的トイレ修繕、心のバリアフリー認証取得支援などを実施

D 事業分野(大項目)のいずれかを選択した理由 (地域未来戦略における3分類(戦略産業クラスター関連事業／地域産業クラスター関連事業／地場産業支援関連事業)との関連性)

本市には、自動車関連をはじめ、歴史文化、伝統工芸、特産品など地域に根差した資源が豊富にあり、これらの多様な資源を活用した誘客やプロモーションを図ることで、観光入込客数の増加や市内消費の拡大につなげ、地域経済を活性化させることができる。

また、本市に多くの観光客が訪れることは、地域の特産品や伝統工芸品、地元事業者の商品等に触れる機会の創出や、地域資源を生かした新たな産品を開発することで、本市のブランド価値の確立や認知度向上をさらに推進し、地場産業の維持・拡大に寄与することになる。

交付対象事業は、大きな人口構造の転換期にある中、地場産業の維持・拡大につなげていくためには、人の流れを生み出し、経済を循環させていくとともに、観光資源「ヒト」「モノ」「コト」の磨き上げ、掘り起こしにより、本市の魅力を持続的に高め、観光の発展を実現するものである。

4. 優先採択テーマへの該当

優先採択テーマ	申請なし
---------	------

5. 他政策・施策等との連携状況

<中心市街地活性化に係る事業>

概要	無
----	---

<特区制度を活用した、又は活用しようとする事業>

特例措置活用		提案		事前相談	
特例措置・提案・事前相談名					
特区指定・認定		特区種別①		特区種別②	
				特区種別③	
概要					

<対日直接投資の誘致を支援する取組につながる事業>

概要	無
----	---

<地域のデジタル人材への教育のための事業>

概要	無
----	---

<スタートアップ支援に係る取組>

概要	無
----	---

連携する取組			所管省庁への 事前相談	
主務大臣による認定を受けた政策・施策間連携に関する事業 計画の名称				
地域未来投資促進 法の「基本計画」に 明記される事業のう ち、個別事業者への 支援が含まれる場合 のみ記載	基本計画に適合するとして承認された 地域経済牽引事業計画の名称			
	主務大臣の承認を得られた 連携支援計画の名称			
地域未来投資促進法の「基本計画」に明記される事業のうち、 設備投資等の支援を行う場合のみ経済波及効果を記載				

(1)	ソフト事業及び拠点整備事業において、他の国庫補助金等の対象となる部分や特別交付税等の他の財政上の支援を受けている経費を除外しているか。	○
(2)	ソフト事業及び拠点整備事業において、従前から一般財源により実施されている事業経費や経常的な経費等の財源振替、地方公共団体が実施する福祉事業等、本来一般財源で措置すべき経費を除外しているか。	○
(3)	ソフト事業及び拠点整備事業において、提案、企画・立案に関するコンサルティング経費を除外しているか。	○

[illegible]

9. 自立性

取組内容

(事業を進めていく中で、事業推進主体が自立していくことにより、将来的に本交付金に頼らずに、事業として継続していくことが可能となる事業であること。)

本事業は地域資源を最大限に活かした誘客活動や、観光資源に対する意識改革(新たな資源の発掘、定着化)も期待しているものであり、交付金終了後も事業継続を可能にするために市内観光関係事業者や市民へ、誘客事業への参画を促すことで自立につなげていく。また、本事業内で行政が行っている観光誘客事業の手法などを、(一社)ツーリズムとよた、各地区観光協会と共有し、それぞれ独自、連携しながら観光誘客事業を継承している仕組み・体制を構築していく。
さらに、観光資源の維持・発展のほか、資源の魅力を伝える人材など観光に携わる人材を育成することで、将来的に行政の事業規模、予算規模を縮小しても、地域が自発的に資源を活用した取組を展開し続ける環境を整える。

自主財源の種類		自主財源の内容						
【A】	一般財源(市)	本事業実施のための委託費用等						
【B】								
【C】								
【D】								
【E】								
各年度における自主財源見込額	事業開始前(現時点)	2026年度(1年目)	2027年度(2年目)	2028年度(3年目)	2029年度(4年目)	2030年度(5年目)	2031年度(6年目)	
【A】		10,159千円	27,000千円	32,000千円	50,000千円			
【B】								
【C】								
【D】								
【E】								
合計	0千円	10,159千円	27,000千円	32,000千円	50,000千円	0千円	0千円	
交付対象事業経費		20,319千円	54,000千円	64,000千円	0千円	0千円		
うちソフト事業費		20,319千円	54,000千円	64,000千円	0千円	0千円		
うち拠点整備事業費								
総事業費	0千円	20,319千円	54,000千円	64,000千円	50,000千円	0千円	0千円	

10. 地域の多様な主体の参画

地方公共団体名								
愛知県豊田市	分類	産	学	言	住民全般			
	主体名	(一社)ツーリズムとよた	愛知県立足助高等学校	ひまわりネットワーク	地区観光協会			
	主な役割、意見及び改善方策への反映	【役割】観光資源開発、調査・戦略策定、プロモーション、地域団体等連携を行う。 【意見・改善方策】事業実施にあたり、役割分担を明確にし、事業内容への反映に取り組む。	【役割】市内の魅力を発信するツアーの実施を通じた観光人材の育成を行う。 【意見・改善方策】高校生と連携し、市内の魅力を発信、観光人材の育成に取り組む。	【役割】事業に関する情報収集を行う。 【意見・改善方策】タイムリーな情報提供を求め、市内外への情報発信に取り組む。	【役割】各協会会員(観光事業者)の意見の吸い上げ、事業実施にあたり会員との調整を行う。 【意見・改善方策】各地域の会員の意見をとりまとめ、事業内容への反映に取り組む。			

11. 交付対象事業の効果検証及び事業内容の見直しの方法、時期及び体制

地方公共団体名	外部組織による検証							
	検証時期		検証方法		外部組織の参画者		検証結果の公表方法	
愛知県豊田市	毎年度	9月	関係者による会議体を構築		(一社)ツーリズムとよた、各地区観光協会、豊田市		市公式ホームページで公表予定	

12. 地方版総合戦略の策定状況

地方公共団体名	地方版総合戦略の計画期間・基本目標									
	現行の地方版総合戦略					次期地方版総合戦略				
愛知県豊田市	2025	年	4月	1日	から	2030	年	3月	31日	まで
	豊田市まち・ひと・しごと創生総合戦略2030 基本目標2:人の流れ・にぎわい・地域への愛着づくり									

13. 地域再生計画の名称等

地方公共団体名		地域再生計画の名称									
愛知県豊田市	第2期豊田市まち・ひと・しごと創生推進交付金計画										
	地域再生計画の区域	愛知県豊田市の全域									
	計画期間	地域再生計画の認定の日	から	2030	年	3	月	31	日	まで	

(別紙1-1) ソフト事業経費内訳

2026.1.27

	2026年度 (1年目)	2027年度 (2年目)	2028年度 (3年目)	2029年度 (4年目)	2030年度 (5年目)	合計
交付対象事業経費【①】	20,319千円	54,000千円	64,000千円	0千円	0千円	138,319千円
交付対象事業における ソフト事業経費【②】	20,319千円	39,000千円	44,000千円	0千円	0千円	103,319千円
交付対象事業における 施設整備・事業設備・備品 経費【③】	0千円	15,000千円	20,000千円	0千円	0千円	35,000千円
交付対象事業における施設 整備・事業設備・備品経 費比率【③/①】	0.0%	27.8%	31.3%	0.0%	0.0%	25.4%

＜2026年度(1年目)＞		ソフト事業1年目を実施する全事業の中で、最も早い支出負担行為日(契約日、交付決定日等)					2026	年	4	月	1	日			
全事業期間における本年の位置付け		豊田市ならではの魅力的な観光資源を活用した誘客及び周遊を促進。 資源の魅力を再認識し、認知を広めることで価値の再構築を図っていく。 狙い:認知段階(知る)、感情段階(興味)													
事業開始時期		事業終了時期		予算計上時期①		予算種別①		予算計上時期②		予算種別②		予算計上時期③		予算種別③	
2026 年 4 月		2027 年 3 月		2026 年 3 月		当初		年 月				年 月			
交付対象事業経費		20,319千円													
交付対象事業におけるソフト事業経費								要素事業数		5	計	20,319千円			
1	山城を生かした観光誘客及び歴史文化資源のリブランディング事業							関連するKPI		①、②、③、④		8,069千円			
	令和11年度の「全国山城サミット」開催に向け、歴史文化資源の掘り起こし、磨き上げ、プロモーションを実施。 ・NHK大河ドラマ「豊臣兄弟」連携イベント開催:6,000千円(委託費／企画立案費、当日運営費、プロモーション費(チラシ作成等)) イベントを通して、松平氏遺跡をはじめ、徳川家康ゆかりの観光資源への誘客につなげるもの。 ・山城企画展の集客機会を捉えたシャトルバス運行事業:1,369千円(バス借上料) 豊田市博物館で開催される山城企画展と各地域の山城を結ぶ無料シャトルバスを運行するもの。 ・ガイド人材育成講座:700千円(7地区分×10万円の講師料) 各地域の山城においてガイド、解説ができる人材を育成する講座を開催するもの。														
2	市内周遊促進事業							関連するKPI		①、②、③、④		5,000千円			
	豊田市ならではの資源を活用した広域的な周遊を促進し、来訪者の滞在時間延伸、市内消費拡大につながる取組を実施。 ・桜ツーリズムの推進:5,000千円 市内の桜鑑賞スポット3か所と文化施設(美術館、博物館)を結ぶ無料シャトルバスの運行を実施。 ⇒シャトルバス運行業務委託:3,000千円(バス借上料、運転手人件費) 利用促進事業業務委託:2,000千円(委託事業者人件費、チラシ作成、御桜印制作等)														
3	教育機関と連携した観光誘客及び観光人材育成事業							関連するKPI		①、②、③、④		1,000千円			
	高校や大学等の教育機関と連携した企画・ツアーの創出、プロモーションを実施。 若い世代と各地区の観光関連事業者などと連携したコンテンツ開発、資源の磨き上げによる観光人材を育成。 事業費:1,000千円(委託費／企画立案費、チラシ制作費、バス借上料等)														
4	豊田市らしい手土産開発事業							関連するKPI		①、②、③、④		4,000千円			
	地域ならではの「食文化」の磨き上げによる豊田市のブランディング戦略を推進する豊田市らしい手土産開発支援を実施。 ・新商品共同開発(OEM):500千円(講師派遣料) ・販路拡大における調整:1,500千円(アジア・アジアパラ競技大会期間中のポップアップ運営費) ・プロモーション:2,000千円(委託料:チラシデザイン作成、印刷等) 事業費合計:4,000千円														
5	ユニバーサルツーリズム推進事業							関連するKPI		①、②、③、④		2,250千円			
	・ハラル等の多様な食文化の推進:250千円(講師謝礼) セミナー実施、対象店舗への伴走支援 ※5事業者想定 ・バリアフリー及び多様な文化対応店舗をまとめたデジタルマップ構築:2,000千円(委託費／委託事業者人件費、システム構築費)														
交付対象事業における施設整備・事業設備・備品経費								要素事業数			計	0千円			
1								関連するKPI							

<2027年度(2年目)> ※2年目以降の交付額が担保されるわけではありません。

全事業期間における本年の位置付け		豊田市ならではの魅力的な観光資源を活用した誘客及び周遊を促進。 資源の魅力を再認識し、認知を広めることで価値の再構築。強みを生かした資源の定着化を図る。 狙い:感情段階(行きたい、楽しい)						
事業開始時期		事業終了時期	予算計上時期①	予算種別①	予算計上時期②	予算種別②	予算計上時期③	予算種別③
2027 年 4 月		2028 年 3 月	2027 年 3 月	当初	年 月		年 月	
交付対象事業経費								54,000千円
交付対象事業におけるソフト事業経費					要素事業数	5	計	39,000千円
1	山城を生かした観光誘客及び歴史文化資源のリブランディング事業 令和11年度の「全国山城サミット」開催に向け、歴史文化資源の掘り起こし、磨き上げ、プロモーションを実施。 ・各山城へのシャトルバス運行事業:5,000千円(バス借上料) 豊田市駅から各地域の山城を結ぶ無料シャトルバスを運行するもの。 ・ガイド人材育成講座:1,000千円(講師謝礼) 各地域の山城においてガイド、解説ができる人材を育成する講座を開催するもの。 ・山城宝探し企画運営:7,000千円(委託費／委託事業者人件費、システム構築費、プロモーション費等) 山城に興味がないターゲット層にも楽しんでもらいながら、山城の魅力を知ってもらうもの。 ・城郭考古学者 千田教授のYouTube動画制作:2,000千円(委託費／企画立案費、講師謝礼、映像編集費等)				関連するKPI	①、②、③、④		15,000千円
2	市内周遊促進事業 豊田市ならではの資源を活用した広域的な周遊を促進し、来訪者の滞在時間延伸、市内消費拡大につながる取組を実施。 ・桜ツーリズムの推進:7,000千円 市内の桜鑑賞スポット3か所と文化施設(美術館、博物館)を結ぶ無料シャトルバスの運行を実施。 ⇒(内訳)シャトルバス運行业務委託:5,000千円(バス借上料、運転手人件費) 利用促進事業業務委託:2,000千円(委託事業者人件費、チラシ作成、御桜印制作等) ・まちなか公共施設を活用した周遊策:3,000千円(委託費:体験プログラム企画立案、事業期間中の運営、プロモーション等) 中心市街地に集積する魅力ある公共施設(美術館、博物館、豊田スタジアム等)を複数箇所巡る体験プログラムの造成				関連するKPI	①、②、③、④		10,000千円
3	教育機関と連携した観光誘客及び観光人材育成事業 高校や大学等の教育機関と連携した企画・ツアーの創出、プロモーションを実施。 若い世代と各地区の観光関連事業者などと連携したコンテンツ開発、資源の磨き上げによる観光人材を育成。 事業費:1,000千円(委託費／企画立案費、チラシ制作費、バス借上料等)				関連するKPI	①、②、③、④		1,000千円
4	豊田市らしい手土産開発事業 地域ならではの「食文化」の磨き上げによる豊田市のブランディング戦略を推進する豊田市らしい手土産開発支援を実施。 ・新商品共同開発(OEM):1,000千円(講師派遣料) ※3～5事業者想定 ・販路拡大における調整:4,000千円(委託料:市内イベントにおけるポップアップ運営費) ・プロモーション:3,000千円(委託料:チラシデザイン作成、印刷等) 事業費合計:8,000千円				関連するKPI	①、②、③		8,000千円
5	ユニバーサルツーリズム推進事業 ・ハラル等の多様な食文化の推進:3,000千円(委託費／企画立案費、講師謝礼、プロモーション費等) セミナー実施、対象店舗への伴走支援、プロモーション ※10事業者想定 ・ユニバーサルツーリズムの知識取得:2,000千円(委託費／企画立案費、講師謝礼、会場借上料、プロモーション費等) 心のバリアフリー取得に関するセミナー、モニターツアーの実施				関連するKPI	①、④		5,000千円
交付対象事業における施設整備・事業設備・備品経費					要素事業数	2	計	15,000千円
1	山城を活用した誘客促進にかかる受入環境整備 誘客を狙う主要な山城(大給城址、松平城址等)における駐車場整備、支障木の伐採、仮設トイレの設置 ※整備する山城は状況に応じて、変更の可能性あり				関連するKPI	①、④		15,000千円
2					関連するKPI			

<2028年度(3年目)> ※2年目以降の交付額が担保されるわけではありません。

全事業期間における本年の位置付け		豊田市ならではの魅力的な観光資源を活用した誘客及び周遊を促進。 資源の魅力を再認識し、認知を広めることで価値の再構築。 強みを生かした資源の定着化による、新規来訪者の獲得及び再来訪の促進 狙い:感情段階(行きたい、楽しい、また行きたい、消費意欲)						
事業開始時期		事業終了時期	予算計上時期①	予算種別①	予算計上時期②	予算種別②	予算計上時期③	予算種別③
2028 年 4 月		2029 年 3 月	2028 年 3 月	当初	年 月		年 月	
交付対象事業経費								64,000千円
交付対象事業におけるソフト事業経費					要素事業数	5	計	44,000千円
1	山城を生かした観光誘客及び歴史文化資源のリブランディング事業				関連するKPI	①、②、③、④		20,000千円
	令和11年度の「全国山城サミット」開催に向け、歴史文化資源の掘り起こし、磨き上げ、プロモーションを実施。 ・各山城へのシャトルバス運行事業:5,000千円(バス借上料) 豊田市駅から各地域の山城を結ぶ無料シャトルバスを運行するもの。 ・ガイド人材育成講座:1,000千円(講師謝礼) 各地域の山城においてガイド、解説ができる人材を育成する講座を開催するもの。 ・山城宝探し企画運営:7,000千円(委託費／委託事業者人件費、システム構築費、プロモーション費等) 山城に興味がないターゲット層にも楽しんでもらいながら、山城の魅力を知ってもらうもの。 ・プロモーション動画制作:2,000千円(委託費／委託事業者人件費、映像制作費等) ・全国山城サミットプレイベント開催支援:5,000千円(委託費／企画立案費、委託事業者人件費、会場借上料、プロモーション費等)							
2	市内周遊促進事業				関連するKPI	①、②、③、④		10,000千円
	豊田市ならではの資源を活用した広域的な周遊を促進し、来訪者の滞在時間延伸、市内消費拡大につながる取組を実施。 ・桜ツーリズムの推進:7,000千円 市内の桜鑑賞スポット3か所と文化施設(美術館、博物館)を結ぶ無料シャトルバスの運行を実施。 ⇒(内訳)シャトルバス運行业務委託:5,000千円(バス借上料、運転手人件費) 利用促進事業業務委託:2,000千円(委託事業者人件費、チラシ作成、御桜印制作等) ・まちなか公共施設を活用した周遊策:3,000千円(委託費:体験プログラム企画立案、事業期間中の運営、プロモーション等) 中心市街地に集積する魅力ある公共施設(美術館、博物館、豊田スタジアム等)を複数箇所巡る体験プログラムの造成							
3	教育機関と連携した観光誘客及び観光人材育成事業				関連するKPI	①、②、③、④		1,000千円
	高校や大学等の教育機関と連携した企画・ツアーの創出、プロモーションを実施。 若い世代と各地区の観光関連事業者などと連携したコンテンツ開発、資源の磨き上げによる観光人材を育成 事業費:1,000千円(委託費／企画立案費、チラシ制作費、バス借上料等)							
4	豊田市らしい手土産開発事業				関連するKPI	①、②、③		8,000千円
	地域ならではの「食文化」の磨き上げによる豊田市のブランディング戦略を推進する豊田市らしい手土産開発支援を実施。 ・新商品共同開発(OEM):1,000千円(講師派遣料) ※3～5事業者想定 ・販路拡大における調整:4,000千円(委託料:市内イベントにおけるポップアップ運営費) ・プロモーション:3,000千円(委託料:チラシデザイン作成、印刷等) 事業費合計:8,000千円							
5	ユニバーサルツーリズム推進事業				関連するKPI	①、④		5,000千円
	・ハラル等の多様な食文化の推進:3,000千円(委託費／企画立案費、講師謝礼、プロモーション費等) セミナー実施、対象店舗への伴走支援、プロモーション ※10事業者想定 ・ユニバーサルツーリズムの知識取得:2,000千円(委託費／企画立案費、講師謝礼、会場借上料、プロモーション費等) 心のバリアフリー取得に関するセミナー、モニターツアーの実施							
交付対象事業における施設整備・事業設備・備品経費					要素事業数	2	計	20,000千円
1	山城を活用した誘客促進にかかる受入環境整備				関連するKPI	①、④		20,000千円
	誘客を狙う主要な山城(市場城址、大沼城址、寺部城址等)における駐車場整備、支障木の伐採、仮設トイレの設置 ※整備する山城は状況に応じて、変更の可能性あり							
2					関連するKPI			